

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、地域の諸企業と大学との一層の連携を図り、学生の実社会への参画能力である就業力を継続的に育む新たな職業教育システムである。

学生の就業力を涵養し、地方社会の振興に寄与する人材育成を目指す。「ふるさと就業力本部」の下で、キャリア教育にかかわる教職員による「ふるさと就業力会議」が実務を担い、大学が一体となって取り組む。

取組の内容は、1年生から4年生にわたって、学年に応じた就業力の涵養を図る。すなわち、まず、1年生段階を「職業への興味」、2年生段階を「ふるさと就業力入門」、3年生段階を「ふるさと就業力の拡張」、4年生段階を「ふるさと就業力の適応」と位置づける。そして基本的には、1・2年生において、講義形式での学習機会を中心としながら、2・3年生では講義科目を配置しつつも、出来るだけ現場（企業）に関与し、実践的な職業研修の機会を拡充し、4年生段階での就職支援に結びつけていくものであり、座学と現地研修を織り交ぜながら、企業人の期待する人材像の具体化を支援する。

当該申請における特徴は次の4点である。第1に、就業力の涵養のための座学体系の整備である。すなわち、①学生の個性把握と適正な仕事内容とのマッチング、②年次に対応したキャリアプログラムの個別指導、③就業力を涵養する座学体系の確立を目指す就業力涵養講座の開講、である。

第2に、実社会に触れる機会を増すための職業研修の体系的な整備である。すなわち、①短期的な「インターンシップ」の維持・拡充（現在協力企業は約60社であるが、その数を増やす）、②21日間にわたる「弟子入りチャレンジワーク」の拡充（現在10社程度の受け入れ企業数を大学の専門性に対応すべく20社程度に増やす）、③企業代表者や熟練職人等を講師とした「就業力ワークショップ講座」の開催、④「企業体験研修ツアー」の企画、等を実施する。

第3に、本取組に協力の得られる企業や団体等と学生、大学という3者間で、企業による各種公開情報・交流情報・CSR情報、学生の抱く希望・戸惑い・相談事などについて、大学を介して相互に結びあえる携帯電話を使ったインターネットシステム（SNSシステム「ふるキャリ道場」）を開発し、学生が日常的に企業とつきあえる体制を整える。

第4に、上記三つの取組に関して、協力企業の代表者等によって構成される「ふるさと就業力支援委員会」を立ち上げ、諸取組を評価し、改善して、地元企業との協働による新たな職業教育システムを構築する。

以上の四つの段階を通じて、就業力の涵養を図っていく。